

西南学院コンサート

# CHAPEL CONCERT 2020

# 嘆きと 賛美

～苦しみの極みと死後の至福を求めて～

2020.1.11 [土] 15:00開演  
(14:30開場)  
西南学院大学チャペル

字幕付き

## PROGRAM

D.スカルラッティ スターバト・マーテル  
H.シュッツ 音楽による葬送 SWV279-281  
A.ロッセー クルーチフィクスス a 8



ヴォーカル・アンサンブル  
エリザベト シンガーズ



バロック・チェロ  
高橋 弘治



オルガン  
杉本 周平



テオルボ  
笠原 雅仁



指揮・監修  
安積 道也

入場料 一般 2,500円(前売り2,000円) 学生 500円(一律) 全席自由(未就学児の入場はご遠慮ください)

お問い合わせ・  
チケット取扱い

TEL: 092-823-3274

(株)キャンパスサポート西南 URL: <http://www.cs-seinan.co.jp>  
〒814-0006 福岡市早良区百道1丁目14-29

主催: 西南学院

後援: 福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団、  
朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、西日本新聞社



# 嘆きと賛美

～苦しみの極みと死後の至福を求めて～

磔刑により死にゆくイエスの傍らにたたずむ母マリア。バロック後期を代表する作曲家D.スカラッティ(1685～1757)は、この嘆く聖母へ捧げられた詩『スターバト・マーテル』を10声の合唱によって劇的かつ肉感的に表現しました。

バロック初期の作曲家H.シュッツ(1585～1672)は、領主ロイスが葬儀の準備のために自身で選びだした聖句に音楽を付けるよう依頼されました。こうして作曲された『音楽による葬送』は、死後の至福と魂の慰めに焦点を合わせた賛美の作品として世に残されています。

## 指揮・監修 **安積 道也**



フライブルク国立音楽大学にて、教会音楽科A課程と指揮科を最優秀で修了。ドイツ国家資格教会音楽家最高位(A級カントール)取得。2004年第1回バイロイト・レーゲンスブルク合唱指揮者コンクール優勝。在独中、ギェンター・スタール聖母教会音楽監督と独仏合唱団フライブルク常任指揮者を兼任。

2009年より西南学院音楽主事。様々な楽器とオルガンのコラボレーションやオラトリオ作品演奏に特化した西南学院オラトリオ・アカデミーの設立、また、多くの器楽声楽に関する名作を九州で初演するなど、地元音楽文化振興の一翼を担う。オルガニスト、指揮者、講習会講師、審査員などとして、全国各地で幅広く活動している。エリザベト音楽大学非常勤講師。日本キリスト教礼拝音楽学会役員。

2020年4月、活動拠点を再びドイツに移し、ハイデルベルク教会音楽大学に合唱指揮科教授として赴任する。

## 鍵盤楽器 **杉本 周介**



高校卒業後米国東ワシントン大学に留学、ピアノを故ディヴィッド・ロストコスキ博士、作曲をディヴィッド・ジョーンズ博士に師事。スイスのバーゼルにてチェンバロをヨルク・アンドレアス・ベッティヒャー氏、オルガンをマッシミリアーノ・ラシェッティ氏に学ぶ。国内ではチェンバロを故芝崎久美子氏、風間千寿子氏に学ぶ。古楽アンサンブル「コントラポント」、「東京古楽団」、「山梨バッハアカデミーバロックオーケストラ」等で通奏低音奏者を務める。国内各地で独奏及び通奏低音奏者としての活動の他、明治期のリードオルガンのプロジェクトなど、ユニークな活動を行なっている。

## バロック・チェロ **高橋 弘治**



桐朋学園大学音楽学部卒業、ブリュッセル王立音楽院古楽器科修了。2001年から2007年まで「ラ・プティット・バンド」のメンバーとして演奏活動を行う。2011年から古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」のメンバーとして演奏活動を展開。最近ではフラウト・トラヴェルソ奏者J.de.ヴインネ、バロック・オーボエ奏者M.ポンセル、バロック・ヴァイオリン奏者D.モンティ、元イ・ムジカ合奏団コンサート・マスターF.アグステイニなど海外アーティストとの共演機会も増えている。現在、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」名古屋教室講師。

## テオルボ **笠原 雅仁**

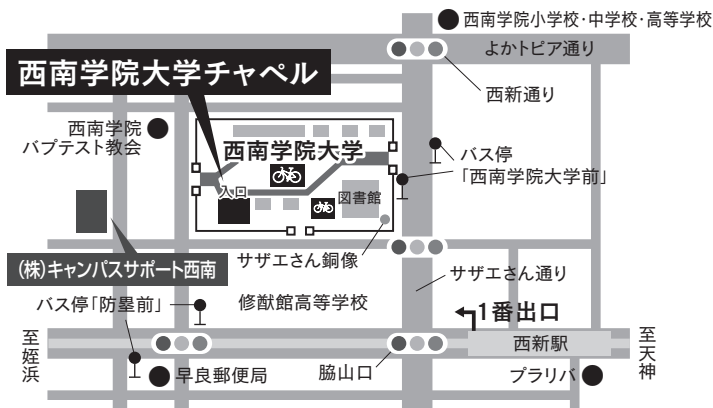


武蔵野音楽大学声楽科にて宮本昭太氏に師事。同大学卒業後は有村祐輔氏のもとで声楽、古典音楽理論を学んだ後、1998年に渡英。ロンドンの英国王立音楽大学、大学院古楽科にてN.ロジャース、S.ロバーツの各氏に声楽を、J.リンドベリ氏にリュートを師事。2002年より仏国のパリ市高等音楽院古楽科にてコレットをJ.テュベリ氏に師事。2007年にディプロマを取得し、卒業。アンサンブル「エリマ」、「カンパニー・オートルムズジュール」など、フランス内外の主要なバロックオーケストラやアンサンブル等と共演、またCDやラジオ・フランス、BBCの為の録音に参加する等、特に初期バロック音楽の専門家として国内外で活躍中。また、舞台劇「メアリー・ステュアート」(パルク劇場)にはリュート奏者として出演するなど、様々な分野での活動を広げている。「アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ」主宰。

## ACCESS

### 会場への交通案内 (西南学院大学チャペル)

- ・地下鉄空港線「西新駅」下車、1番出口より徒歩10分
  - ・「防塁前」「西南学院大学前」バス停から徒歩5分
- ※駐車場がございませんので公共交通機関をご利用下さい。



## ヴォーカル・アンサンブル **エリザベト シンガーズ**



エリザベト音楽大学付属室内合唱団「エリザベト シンガーズ」は、フィンランドを代表する合唱指揮者のティモ・ヌオランネ氏を迎えて2002年7月に設立。2006年以降は松原千振、藤井宏樹、片山みゆき、本山秀毅、松下耕の各氏を迎え、定期的に演奏会を開催している。これまでにポーランド、ドイツへの演奏旅行や、イギリスのヒリヤード・アンサンブルと広島にて共演。また、学校等の教育機関における音楽教室や慰問演奏を積極的に行っている。2017年1月には西南学院大学チャペルコンサートにおいて安積道也氏の指揮の下、ヘンデル『メサイア』を全曲演奏し高い評価を得ている。CD録音としては「カルミナ・セークリ Carmina Saeculi ～ヨーロッパ合唱音楽100年の旅～」(2004年)、「主の祈り 高田三郎 混声合唱のための典礼聖歌」(2012年)、「聖週間の典礼 高田三郎 混声合唱のための典礼聖歌II」(2015年)。「イエスのみ心 高田三郎 混声合唱のための典礼聖歌III」(2017年)